

平成31年度 学校自己評価システムシート（県立飯能南高等学校）

目指す学校像	校訓「礼儀・誠実・協力」のもと、スポーツや文化的活動と勉学に励む元気で人間性豊かな生徒を育てる、地域に信頼される学校
--------	--

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	<p>①授業改善や学習評価の改善等を進め、基礎学力の定着と向上及び主体的に学ぶ力を伸長する。</p> <p>②きめ細かな生徒指導と体験的な活動やスポーツ活動等を充実させ、礼節と自主性・自律性を備えた豊かな心を育む。</p> <p>③計画的な進路指導を充実させ、早い段階から進路意識をつけさせるとともに、主体的に進路実現が果たせる力を育成する。</p> <p>④保護者・地域との連携・協力を積極的に進め、学校情報を広く発信する。</p>
------	---

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価			実 施 日 平 成 年 月 日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策
1	基礎学力不足のため授業を十分に理解できない生徒と進学希望の生徒が混在している。学力差が大きいため、個に応じた学習指導が必要である。 新学習指導要領実施が目前に迫る中、新しい授業への改善の取り組みを職員共通理解のもとに押し進める必要がある。	●基礎学力の定着・向上と学習習慣を確立するよう改善する	①各教科担当・担任が連携し、予習・宿題・復習など、学習習慣の確立に向けた家庭学習時間の増加の働きかけを組織的に行う。 ②各教科での小テスト実施等により基礎学力の定着を図る。 ③生徒への学習アンケートを年2回実施し、授業への取り組み状況を把握、担任・教科へフィードバックし個に応じた指導に生かす。	①組織的な働きかけがなされ、家庭学習時間が増加したか。 ②昨年度より学期毎の欠点保有者数は減少したか。 ③学習アンケートより生徒個々の授業への取り組み状況を把握し、学習指導環境の改善に繋げる事が出来たか。			
		●協調学習を含めた授業改善における各教科での取り組みの共有を図る	①公開授業や授業参観等を実施し授業改善の取り組みを共有する。 ②カリキュラムマネジメント、新学習指導要領の全体研修会を開いて各教科での取り組みを紹介しあい、全教職員の共通理解を図る。	①協調学習の取り組み事例や実践を通して共通理解を図り、新しい学びに関する意識を高めることが出来たか。 ②研修会を通して新学習指導要領の理解が進み、本校での新教育課程編成が進められたか。			
2	全職員による積極的な生徒指導により、身だしなみの乱れは減り、生徒に落ち着きが出てきた。また、通学路に教員が立ち自転車マナーの向上を促したところ近隣からの苦情も減少している。全体として問題行動は減少しているが、SNSの普及にともなうコミュニケーション能力不足による人間関係トラブルは未だ多い現状である。今後も、社会との繋がりを意識させた上で、基本的な生活習慣の確立、コミュニケーション能力の向上を促し、規範意識を持った生徒を育成する必要がある。	●生徒の自主自立の精神を重んじ基本的な生活習慣の確立を徹底し、公共性、規範意識、豊かな心を育成する	①朝の校門指導や挨拶指導を徹底する。 ②登下校時の巡回において特に自転車指導を徹底する（二人乗り、イヤホン、傘さし、並列走行等）。 ③授業をしっかりと受ける習慣を身に付けさせる。 ④制服を正しく着用させる（特にスカート、ズボン、靴下等）。 ⑤ネット社会における規範意識を育てるための研修会を実施する。 ⑥自動二輪車の免許取得の要項を浸透させる。	①登校時の服装が整っておりしっかり挨拶ができていますか。 ②巡回表通りに教員が巡回し生徒に注意喚起ができていますか。 ③チャイム着席がしっかりできていますか。 ④教員の声かけが浸透しているかどうか。 ⑤SNSによる問題行動が減少したかどうか。 ⑥自動二輪車の免許取得がなかったかどうか。			
		●学校行事・部活動などに積極的に参加出来る生徒を育成する	①各行事を生徒主体で実施できるよう、時程・ルール・役割分担等を明確にし、生徒・教員への周知徹底を図る。文化祭ではジャンルの見直し等を行い、選択の幅を広げることで積極的に文化祭に参加できるようにする。 ②部活動所属生徒に対し、個人の状況に合わせた適切な指導を行う。 ③教員数の減少に伴う部活動統廃合について、本校の実態に即した方針・規定を策定し、円滑に運用する。	①各行事の時程・ルール・役割分担について生徒・教員が共通認識を持って進んでいったか。文化祭のジャンルの選択の幅は広がったか。 ②部活動の加入状況と満足度は高まったか(アンケート調査による)。 ③統廃合についての方針・規定が策定され、円滑に運用されているか。			
3	将来への展望や目的意識を十分に持たず入学してくる生徒が、少なからず見られる。充実した高校生活を送らせるために、目的意識を持たせる指導が必要である。 特に、全校の就職希望者が昨年の2倍近くと多い。保護者も含めた進路意識の醸成が必要である。	●進路指導の組織的な取り組みを充実する	①年間計画を綿密に立て、計画的・継続的かつ組織的に実施する。 ②外部講師等との連携を密にするとともに、各担任が個々の生徒に適切な指導ができるように、研修会や学年会等を通して具体的に伝える工夫をする。	①年間計画に基づく進路指導は実施できたか。 ②適切な進路選択ができたか。就職内定状況は良好か。			
		●進路意識を向上させ、希望の実現を図る	①保護者会・保護者面談期間に、保護者参加型の進路相談会を実施する。また、PTAの進路行事を支援して進路実現までの保護者理解を促す。 ②進路見学会、卒業生懇談会を充実する。ガイダンスにおける必要な情報の提供方法を工夫する。	①保護者の進路意識は高まったか。進路指導に対する満足度は高いか。 ②早い段階からの進路意識の向上がみられたか。			
4	本校の教育活動を中学生・保護者・中学校教諭・地域の方々に効果的にアピールし、生徒募集に繋げる必要がある。特にホームページや携帯メールの内容の充実等、時代に合わせた情報発信の仕方が課題である。 また、市内中高等学校および地域との連携を継続・強化し、本校の特色や生徒の実態を広範囲に伝えていく必要がある。	●効果的な情報発信を図り、市内中高等学校・大学・地域と連携した各種取り組みを達成する	①ホームページによる情報発信を効果的に実施する。特に、広報だけでなくPTA活動等の幅広い情報を掲載し内容の充実を図るとともに、更新頻度や配信方法を改善する。 ②市内中高・大学との連携・相互交流を強化する。中学生を対象とした諸行事を円滑に実施し、生徒募集へとつなげる。	①ホームページの更新内容・頻度が増加したか。 ②昨年度より参加者が増加したか。また、参加者の満足は得られたか。			
		●地域・保護者との連携を強化する	①メール配信の頻度および内容の充実を図る。 ②地域の催事への積極的な参加を生徒に呼びかける。	①メール配信の頻度が増加し内容が充実したか。 ②地域の催事への生徒参加は見られたか。			